

新潟日報

2021(令和3)年
3月4日(木)



佐渡

佐渡総局
〒952-0006
佐渡市春日 1143-9
0259(27)4811
FAX(27)2090

高津	6時	9	12	15	18	最高	13
羽茂	6時	9	12	15	18	最高	13

廃キャップアートに変身

両津港ターミナル トッキッキで分別PR

ペットボトルのキャップ 大な佐渡の海や空のイメージを使ったマザイクアート

が、佐渡汽船両津港ターミナル内の両津南埠頭ビル2階(佐渡市両津港)にお目見えた。県のマスコット、キャラクター「トッキッキ」や、世界遺産登録を目指す佐渡金山の小判を描いた作品が市民や観光客の目

引いている。アートは、環境衛生検査などを手掛ける「江東微生物研究所」(東京)の新社所がペットボトルとキャップの分別や再利用をPRしようと制作した。

同研究所によると、トッキッキの作品は赤や白など6色のキャップ1万74個を使い、縦1・9尺、横2・2尺になる。青い背景は

も込めた。小判の作品と合わせ、企画から約4カ月かけて完成させた。展示は秋まで。作品の向

では、船を利用する市民や観光客が足を止めて鑑賞したり、記念撮影をしたの

佐渡市加茂小の年の天々医療従事者への感謝の思い(保倉那さん)と1年の取

那君(ときよ)は「学び色をこんなにたくさん校や家でも再利用のためにめるのが大変そう」と感

キャップを集めている。同じく

地域防災のリーダーが地区防災計画などについて学んだ研修

地域ぐるみ 防災力強化

新穂瓜生屋で研修

佐渡市の各地区で防災対策の中心となる「地域防災リーダー」のスキルアップ研修が、佐渡市新穂瓜生屋のトキのむら元気館で開かれた。日本防災士会県支部の防災士らが講師を務め、住民が地域の特性を踏まえて作る「地区防災計画」のポイントなどを学んだ。

市が2月27日に開き、地域防災リーダーや自主防災組織の幹部ら約170人が参加した。

同支部の成川一正事務局長は、阪神大震災で倒壊家屋から救助された人のうち、77%が近隣住民に助け出されたとし、「公助が届く前の自助、共助が重要に



地域防災のリーダーが地区防災計画などについて学んだ研修

なる」と強調。半面、阪神大震災を機に整備が進んだ自主防災組織は、結成当時の役員が高齢化するなど、機能が低下していると述べた。

地区防災計画は「作成を通じて地域につながりが生

「洪水、津波とも浸水の懸念がある地区。リーダーは1年交代で継続的な議論が難しい面もあるが、取り組みを進めたい」とした。市によると、市内では新穂地区で防災計画を作成したほか、沢根地区で作成に

対象は小学生以上の市

まれ、組織が活性化する」とし、作成の過程が重要と指摘。性別、年齢を超えて幅広く議論をし、高齢者の身体的な変化を捉えて避難の支援を考えると、配慮すべき点を説明した。

「洪水、津波とも浸水の懸念がある地区。リーダーは1年交代で継続的な議論が難しい面もあるが、取り組みを進めたい」とした。市によると、市内では新穂地区で防災計画を作成したほか、沢根地区で作成に